

古代倭国北縁の軋轢と交流 栗原市入の沢遺跡で何が起きたか

平成27年9月21(月)～22日(火)

栗原文化会館(アポロプラザ)

主催 東北学院大学アジア流域文化研究所
『新時代における日中韓周縁域社会の宗教文化構造研究プロジェクト』
(文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)

協力 宮城県教育委員会、栗原市教育委員会
後援 宮城県考古学会

入場無料・申込不要

大和王権が日本列島で最初の広域支配体制を広げる4世紀の頃。

大和と同じ暮らし方をする人々が北のはずれに深い壕と材木堀で防御を固めた大きなムラを作った。

しかし、ムラは火事に遭い放棄された。大切な鏡や装身具、鉄製品までもが遺跡に残された。

栗原市入の沢遺跡でいったい何が起きたのだろうか。

9月21日

入の沢遺跡の調査成果

村上 裕次(宮城県教育庁文化財保護課)

銅鏡からみた入の沢遺跡と東北の古墳時代

森下 章司(大手前大学)

玉類の流通からみた古墳時代前期の東北地方

大賀 克彦(奈良女子大学)

古墳時代前期の倭国北縁の社会

高橋 誠明(大崎市教育委員会)

「入の沢遺跡」の頃の東北北部社会

八木 光則(蝦夷研究会)

9月22日

東北地方の古墳時代の始まり

辻 秀人(東北学院大学)

ヤマト王権の動向と東北の古墳時代社会

和田 晴吾(立命館大学名誉教授)

討論 入の沢遺跡で何がおきたのか

お問い合わせ先：東北学院大学アジア流域文化研究所

TEL・FAX022-264-6370

E-mail: ryuiki@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL: <http://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/~hicarb/>

